

夕ぐれの散歩

白川 渥
え・中 西 勝

私は夕暮は好きだが、年の暮は嫌いだ。人生の暮は、もっと嫌いだ。

たそがれ（誰ぞ彼）かれたれどき（彼は誰時）ツワイライト。——それぞれ甘いムードをたたえた美しい言葉だが、私の場合、夕暮が好きなのは人に休息を約束してくれる時間だからである。一口に言って、これから寝床の中でグッタリ五体を伸ばして眠れるからだ。が、朝はそうはゆかない。どんなに美しい朝でも、「生活」が待ち受けている。どうやら、その生活への突進力が不足し



て来たためのようである。

毎年のことながら、年の暮の騒々しさは苦が手だが、世の中が週単位となって、一年がよいよ気ぜわしくなった気もする。そうして歳を重ねてあわただしく老醜の日がやってくる。私にはまだ美しい老年を迎える覚悟などは出来ていない。

ところで、新聞小説などがはじまって、その日の仕事に追われてくると、美しい夕暮も、とたんに地獄の時間になる。何が何でも今夜のうちに書き

上げねばならない。うまい構想も浮ばぬままに、やむなく書齋をとび出して、外をぶらぶら歩いていると、人にはひどくのんきげに見えるらしい。とりわけ、年の瀬の近ずいた時分には、私のような散歩業者の生態は何やら結構な人種にみえるらしく、

「子供を小説家にしようと思うんですが……：、なんて相談をもちかけてくるオッサンにぶつかったりする。こちらのブラブラは、どうにもうまく仕事が進まず、苦しまぎれの対策なのだ。私は曾て一度も、子供や女房連れのあの世の常の仕合せそうな散歩などはしたことはない。いつも、独りだ。左様、頭の中のメ切りを控えた仕事と一緒だ。一度このわずらわしい伴侶をふりすてみたい念願しきりだが、わが鈍才運筆では、売文業を廃さぬ限りどうしようもあるまい。

とは言え、こんな散歩業にも、時にうれしいことがないわけでもない。ひよひひよい思いがけない人に出会う。戦争以来はじめてと言うような懐かしい顔にぶつかるともある。いつか、むかし私が教育関係の役所勤めをしていた頃に知り合った老校長先生と、ひょっこり街角で出っ会した。

少し脱線するが、私は「小学校長」と言うものは絶対に「愉しい職業」でなければならぬと思っている。だからこそ「聖職」と言うことも成り立つのでないか。この二つは、校長の、いや、教育者と言うものの、いわばサインとゾルレンの両面だと思っている。だが、近代教育のシステムは政治家の出来損ねみたようなものを大校長にしたるようになるから、ぶちこわしになった。

つまり、「愉しくない聖職」になってしまった一口に言って、良寛和尚のようなあんな子供好きでは、あんな純白な精神では、勤まらないことになったのである。借問す、真に子供好きの大校長日本に幾人ありや。

ところで、その夕出会ったという老校長先生は当時私の最も理想とした教師像で、子供と対話し子供と遊び得ると言う第一義の能力をそなえた貴重な存在であった。が、せいぜい第三義ぐらいの条件でしかあるまい「学校経営」の手腕がお粗末であったために、田舎の小さな小学校長を勤めたきりで、今は小商人となり時々神戸の町へ商品を仕入れに現れているのだった。良寛を小商人にした近代教育にノロイあれ。

私は散歩の足をとめて、その元校長先生と街でお茶をのんだ。先生はいまの職業についてはあまり喋らなかつたので、私も思い出話ばかりして別れた。むかし、私が彼の学校へ視察に行った時、三度とも校長室は留守で、教室の方で授業をしていた。担任教師の仕事の中へ割り込んで、子供たちの相手をしていたのである。あべこべに、校長室で用談中、ドヤドヤと乗り込んで来た腕白坊主がこの「良寛」の袖にまつわりついた光景も見ている。

先生と別れての帰途、私は何となく書けそうな気がして来た。つまり、私たちの仕事の発酵素である憤りのようなものが、そんな昂ぶつたものが胸にフツフツと湧いて来たのである。

(作家)

クリスマスとジル ベスター

古 林 喜 楽
え・中 西 勝

きよしこの夜のクリスマスは、この頃日本ではおかしなことになっているが、さすが本番のヨーロッパでは、全くムードがちがう。むかし私はベルリンで、初めてクリスマスを迎えた。下宿をしていても、当夜はみんなにプレゼントを贈るらしいので、おぢいちゃんにはこれ、ママちゃんにはあれ、娘たちには何々と、工夫をこらして品をととのえた。下宿のママは高慢ちきで、どうもいけずかなかったので、よい加減そこそこの品にし、娘に上等の品を贈ると、あやしまれることともなるので、これもほどほどのものにし、結局ふだん一番親切にしてくれたおぢいちゃんに、心のこもった品ものを用意した。

さてそのきよしこの夜、そとは雪がしんしんとふり積ってゆく。家の中には、クリスマス・ツリーが万籬飾にかざられる。電灯は消されて、ロー



ソクに火がともる。やがて町中の教会の鐘がなりひびく。当時ベルリンには、百以上の教会があったので、これが一斉に鐘をつきならすと、まち中が鐘の音に埋まる。全く聖夜そのものの感じがしみ通るのであった。つくづくクリスマスだなぁと思ったことであつた。全くその光景は表現以上のものである。

やがて食卓を一同がかこみ、まず神に祈りをささげる。讃美歌をみんなで合唱する。そしてやおらみんなで七面鳥をつついて、夕食に入る。食後が又なごやかなことになる。はじめにお互いの間で、プレゼントの交換をする。私のおぢいちゃんへの贈りものには、おぢいちゃんが泣いて喜んでくれた。固く固く握手してくれた。反対にママちゃんの方は、あれほど毎日毎日面倒をみてやっていたのと言わんばかりにひがんでしまつて、座

が白らけたことをいまだに忘れない。心のつかいかたが、おのずと品物に露骨にあらわれてしまったのには我ながらいささか驚いた。

こうしてキヤツキヤツと騒ぎつつ、プレゼントの交換が一段落すると、演芸の部にはいる。今であつたなら、私も秘芸の数々を披露して、ドイツ人たちの鼻をあかすのであつたが、当時は私もまだ若く、このごの私と雲泥の相違のモツサリ型であつたので、聞き役見役の方に廻っていた。最後に娘さんたちとダンスをする位が落ちであつた。

ベルリンのクリスマスは、それぞれわが家で清らかに祝う文字通りの聖きこの夜であつたが、翌年パリで迎えたクリスマスは、これとは又打つて變つて、華やかに又賑やかなことであつた。きらびやかに飾られたレストランで、楽隊入りの飲めや踊れの一大舞踏会、ワイン・グラスを傾けては歌い、歌つては踊り、夜の更くるのを忘れてしまふほどの愉快極まるこの世のパラダイスが展開されたのであつた。勿論フランスでの私の滞在は短期間であつたので、こんなのがパリのクリスマスといつてよいのかどうかは私にはわからない。しかし当夜方々にこのような愉快な光景を道々見たし、少くともドイツにはこんなのは見当らなかつたことだけはたしかである。

ベルリンのクリスマスは、静かにも清らかなものであつたが、その代りおおみそかの十二月三十一日の夜は、パリのクリスマスそのもののけのぎやかな舞踏会が、夜通し元旦の朝まで、繰りひろげられる。この夜だけは、ダンスをプロポーズされた相手は、ことわることができないことになつていく。だから氣の向くままに誰とでもダンスができ

る。やがて夜もふけ日本でなら除夜の鐘のなりだす午前0時になると、一分間あかりがすべて消されて真暗闇になる。この瞬間には誰とキッスをしてもよい。予め心準備のない日本人だけが、闇のなかでモサツとしていて、まわり四方八方のチュツ・チュツの音を、けなりげに聞くだけのことになるのが多いらしい。時計をみて、十一時五十分ごろから、素早く立ちまわれるように、場所の移動をしておかなければいけないのであつた。こういうことになる、日本人はどうも何かにこだわつて、無邪気にそのふん囲氣にとけ込めなくせがある。日本にも、郷に入れば郷に従えということばがあるけれども、実際には日本人は郷に従わないたちにてきている。それなればこそ、こんな言葉をつくる必要があつたのかも知れないが。

それはそれとして、ドイツのジルベスターと言ひパリのクリスマスと言ひ、ドイツのマインツにおけるカーニバルと言ひ、ミュンヘンのホーフプロイ・ハウスのビア・ホールと言ひ、ハンブルグのチラタールのピア・ホールと言ひ、フランクフルトのエッペル・ワインの民衆酒場と言ひ、老いも若きも、男性に限らず女性も、親・息子・娘もともどもに、清潔に息ぬきをするのできる憩いの場所、しばしの間羽目をはずして、ともに歌いともに踊り、無邪気に笑いこけることのできる場所のあることは、ヨーロッパの嬉しいところである。今度の旅行のときも、あるビア・ホールで、おちいちゃんが小さい孫の手を引つ張りあげるようにして、ダンスしている光景に接して、何とも言えないほほえましさを感じたことであつた。



きもの
と細貨

東京 神戸

銀座店	新橋店	東店	西店
TEL. (572)	TEL. (571)	TEL. (33)	TEL. (33)
5151	5086	0083	0836
1代7	029		(代)

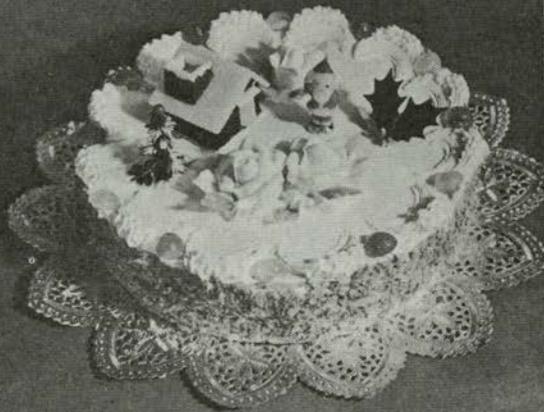
小松ストア地階

おんがら屋



風月堂の
クリスマス
ケーキ

300円 500円 800円 1000円 1500円



クリスマスケーキのお予約はお早目にどうぞ

お菓子のお店の 神戸っ子
神戸にそだって 70年

神戸  元町

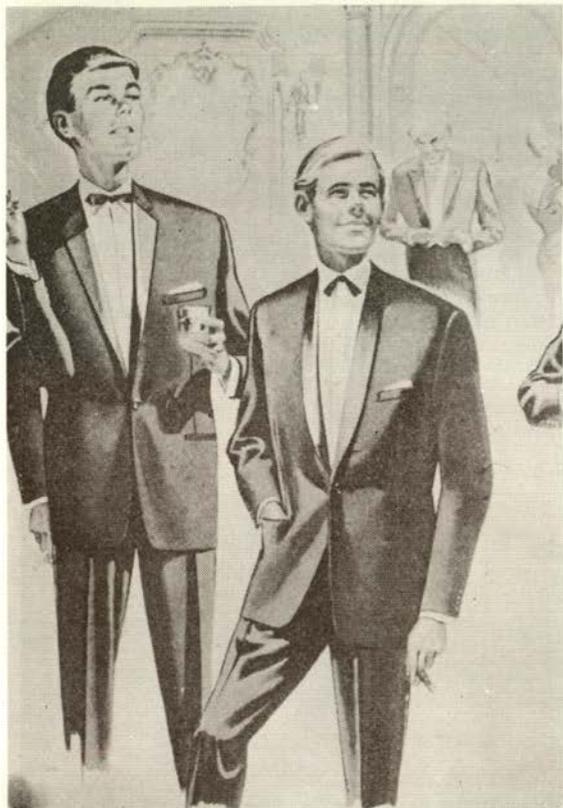
風月堂

TEL. (33) 2412-5



お歳暮に

マロングラッセ
ゴーフル
銘菓詰合せ



O-SHIBATA



柴田音吉洋服店

神戸・元町通4丁目 神戸 34-0693
 大阪・高麗橋2丁目 大阪 231-2106



美しさを創る…

マスター・ニュートン

トア・ロード 1818



写真は玉井操社長

□神戸っ子放談□

海運界の再建は

神戸港の改善から

玉井

操

神戸商工会議所副会頭・日本船主協会副会長・玉井商船KK社長

周知のように、神戸商工会議所の浅田会頭をはじめ、新しい首脳陣が誕生した。しきりに「地盤沈下」を嘆かせる最近の神戸経済界が、今後どのような進展ぶりを見せるかは、一般の強い注目を集めているようだ。本誌編集部では、今度新しく神戸商工会議所副会頭に就任された、玉井操氏（玉井商船社長）を訪ね、副会頭としての抱負などを中心に、今月の神戸っ子放談をお願いした。

小学校5年生の時まで田舎に預けられて育つ

「私は口べたで、話がまずいので、どうも困ったね。

まあ、子供の頃の話からでも始めましょうか。

私が生れたのは、兵庫区の鍛冶屋町なんです。今はその辺は昔の面影がすっかりなくなってしまいましたけれども。昔は今の新聞地が川（湊川）だったんです

よ。これは小さい時に父から聞いた話ですが、父は子供の頃、川の土堤で遊んでいて、沢田清兵衛さん——大地主として有名な人でしたが——からよくアメをもらったなんて言っておりましたよ。私が昭和18年に、船舶修繕工場を作った時に、藤之寺のお坊さんから、この工場の場所は、昔あなたのお父さんが子供の時分によく遊んでいた所だと教えられましたね。びっくりして、これはきつと父の引き合わせというものだろう、と思つたものです。今にして、父は偉かつたと思ひますね。親父は、自分が一人前になるまでは、というので、私は小学校5年生の時まで、播州八代の田舎に預けられたんです。田畑の仕事を手伝つたりして育つたおかげで、ずいぶん丈夫な体になりましたね。私の体はその頃出来上つた、といつていいんじゃないかと思つています」

お辞儀とお金の大切さを覚える

「それからやつと父に連れられて、東京へ行ったわけです。明治学院→早稲田大学というコースを辿りました。大学を出たのが昭和3年。ちようど不況のどん底で、大学出だからといつても、ひとつも雇い手がないというよゆうな時代でした。父が山下汽船の重役をしており、私も船の仕事の男性的な点に引かれて父の会社に入りたかつたんですが、社長に、よそに行つて修業をして来た方がよい、そして、お辞儀とお金の大切さを覚えてくるべきだと言われましたね。そこで、それには保険会社がいはばんいいということで、神戸海上火災（現在同和火災）へ入社したわけです。そこで8年間修業して、昭和10年父が死亡しましたので、それを契機にやつと玉井商船に戻つたという次第なんです。今だに忘れられないのは、私が神戸海上火災にはいる時、父が、玉井の息子はどうにもならんやつだと会社で言われるようでは、絶対に引きとらない。私が引きとると言つても、残つて欲しいと惜しまれるような人間にならなければ、引きとらない」

と言つた、その言葉ですね。今もそれは、はっきり耳に残っているんですよ」

サッカーに没入した学生時代

「学生時代の思い出といえば、なんといつてもサッカーのことですね。実は私、明治学院の頃には野球をやつていましたね、三番バッターで外野手だつたんです。それが、いつだつたか中学校のサッカー大会があつて、それに二カ月の練習期間しかないのに、体が大きくて足が速いからというので、ひっぱり出されましたね。それがサッカーとのそもそのなれそめです。以来、すっかり病みつきになりました。早稲田で島田孝一部長と共に、はじめてサッカー部を作りました。部員わずかに12名だつただけでも。サッカーは11人でやるゲームですからね。なにしろ当時は野球全盛の時代で、サッカーなんて日本じゃ誰も見向きもしてくれないという有様。それが、大正13年に第一回の高等学校大会があつて、早稲田はその時私立でただ一校のみ参加して、優勝したんですよ。続けて2回目も優勝しまして、この壮挙によつてはじめて学校側もサッカーというものを認めるようになりました。また、私などはサッカー早慶戦の草分けです。この時20銭の入場料をとつた。有料でやるんだから、いったい何をやるんだらう、どんなものかと思つて見にくる人が多かつたようです。結局、切符が足りなくなつたほどです。それから昭和元年に極東オリンピック大会に、日本の代表として出場、はじめてフィリッピンを破つた。誰も勝てるなんて思つていなかったんですから、この時の勝利の味は忘れられないですね。スポーツの国際的な競技大会で外国に勝つたというのは、たぶんそれが最初だったのでないかと思ひますね。その後、昭和4年に関西でサッカー協会を作つたのですが、それがやがて日本サッカー協会に成長したわけですから、少くともこの方面ではかなり働いてきたと自負している次第です」

立ち遅れている神戸の海運界

「神戸の海運界の現況ですか？　そうですね、やっぱりだいたい立ち遅れているといわざるをえませぬね。戦前の海運景気はなやかなりし頃と比べれば、今では船会社はもう商売ではないと言いつてもいいくらいですよ。昔は、ポーナスにしても2年あるいは3年分出したということもあったんですからね。海運界の見通しというよりも、だからなにはともあれ、今の状態のままではどうにもならぬということですね。どうも今となっては、そのうちなんとかなるだろうという気があって、それが甘かったと思いますね。まあ、戦争に負けたあと、日本の海運界をつぶしてしまおうというような占領軍の圧力がかけられていたため、日本の海運界全体が立ち遅れてしまった。そういうことなんです。まず5年は遅れているといえるでしょう。特に神戸の場合は、神戸港が長い間G・H・Qの管理の元におかれていたわけで、そのため船がとんと入らなくなりました。入港については司令官の許可がいるとか、税関の手続きだとか、面倒な点がずいぶん多くて、神戸港は敬遠されてしまいましたね。そういう状態だったから、商社にしても海運会社にしても、ほとんど東京、大阪に移ってしまっただけです。

だから、神戸港については、施設の改善をするとかして、人を引きつける方法をもっと考えなくてはならないでしょうね。むずかしいことですけども。また、近海内海航路の発着場の大規模のものを作って、小さな船が入港できないで2日も3日も待たされているというよう現在の不合理な状態を改めるべきでしょう。船着場のセンターを是非作ってもらいたいと思いますね。多勢の人が集まる方法を考えなくては、繁栄はありえないのですから。」

縁の下の力持ちに

「今度、神戸商工会議所会頭に浅田さんが就任されたわけですが、おそらく今後は従来の会頭にない味が出てくるんじゃないかと思えますね。まあ、私は表面に立って、華やかな活動をするのは苦手なんです。私の肩書には、たいがい『副』がつく。(笑)商工会議所の副会頭になったといっても、私としてはやはり縁の下の力持ち的な働きをしたいと思っています。浅田さんに、思う存分働いていただきたいし、その代り内部の調整については私が責任を持ちます。会頭の働きやすいようにしていくのが、自分のつとめなんです。ただ、従来の商工会議所は、ちょっと事務局に頼りすぎていたくらいがありますから、浅田会頭もそれに気づいていて、企画室を内部に設置して、商工会議所におけるいわばプレイン的な存在にしたいという案を立てておられるようです。また従来の副会頭3人制を4人制として、若手の経営者を副会頭に抜擢し、将来の会頭候補者を養成してゆきたい、そういう案を浅田会頭が出されて、私も副会頭の面々もみな賛成致しましたので、これは近々に実現するはずですよ。」

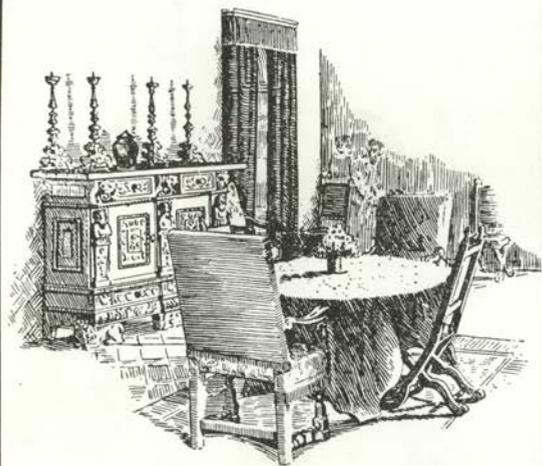
日本舞踊・競馬・謡い・園芸・囲碁

「私は、お酒が飲めないんです。これはいくら稽古しても駄目で、体質なんでしょうね。でも、趣味はやたら広くて、園芸・日本舞踊・競馬・謡い・囲碁など一応みんな手をつけました。戦後、玉椿記念レースというのがありました。その玉椿はもと私の持っていた馬で、後に人にゆずりましたけど、連戦連勝のすばらしい馬でした。古い競馬ファンなら、名前を覚えてる人がいらっしゃるんじゃないかと思えますよ。もっとも今ではすっかり、馬の足を洗ってしまいましたけどね。(笑)」

(文責編集部)

× × ×

家具・室内装飾・工芸品



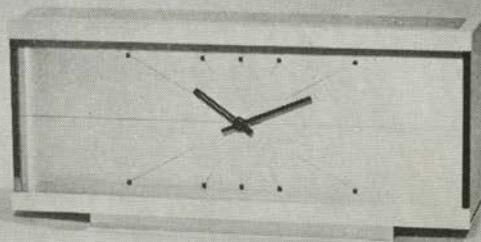
永田良介商店

大丸前 TEL { ³⁹ 3 7 3 7
3 7 3 9

Kienzle

Made in Germany

光が時を動かす 光電時計



特約店

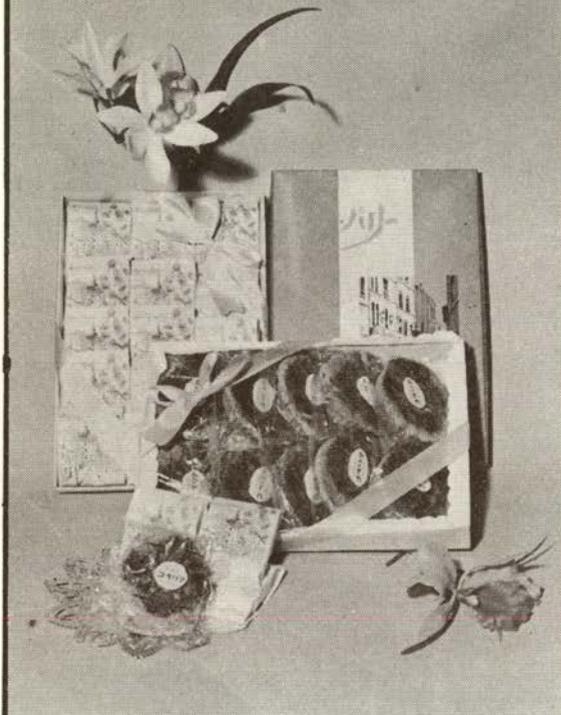


美田時計店

神戸・元町3丁目

TEL 33-1798-8798

クリスマス・お歳暮に



アルモンド

本店 神戸市生田区元町通2の43
直売所 神戸大丸・新聞会館秀品店
本店 TEL 332203

ヤマハワッペンバッグ 60点シリーズプレゼント

期間中 国産30cmLP 輸入LP 4トラックステレオテープお
買上げの方にシールをさしあげます。60点分のシールを集めま
すと引換に素晴らしい“ヤマハワッペンバッグ”をさしあげます。
色はブルーとワインレッド2色ございますのでお好みの色をお選
び下さい。

39年11月15日

40年2月15日



神戸もとまち

日本楽器

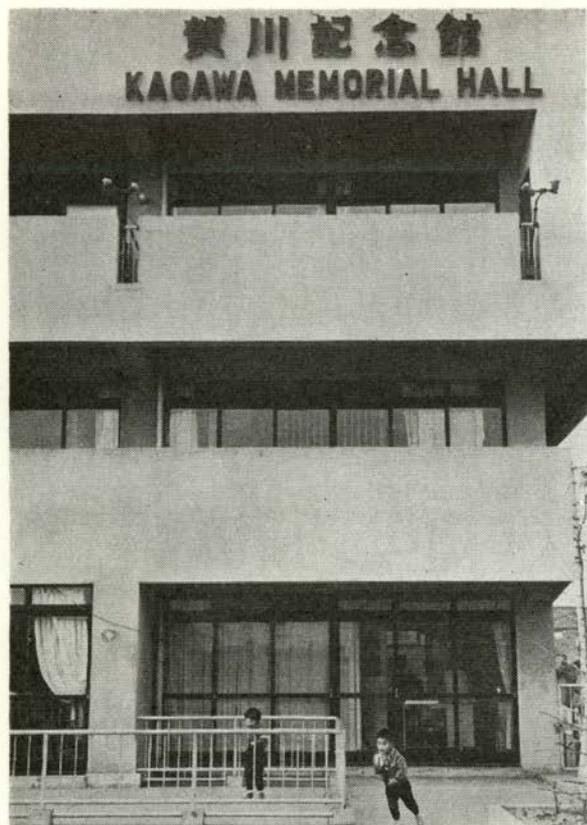
元町2丁目 TEL 33151代

賀川記念館

松原新一 カメラ／緒方しげを

《一粒の麦、地に落ちて死なずば、唯一つにて在ら
もし死なば、多くの果を結ぶべし》——ヨハネ伝12・24
《汝らは地の塩なり、塩もし効力を失はば、何をもつて
かこれに塩すべき。後は用なし、外にすてられて人に踏
まるるのみ》——マタイ伝5・13。

聖書に記されたこれらの言葉は、既に広く人口に膾炙
している。《一粒の麦》、《地の塩》、それらは、ともに美
しい言葉である。だが、より正確にはそういう言葉が美



しいわけではない。むしろ、一人ひとりの人間が、それ
ぞれの生活のなかで、日常の具体的な行ないをつうじて
みずからを《一粒の麦》に、《地の塩》に高め、育ててゆ
く、そういう現実の生きた努力そのものが美しい。もと
よりそれは容易なことではない。しかし、それを容易な
ことではないとして、そこで立ちつくしたまま易きにつ
く、そして《地の塩》も《一粒の麦》も、ひとしく自分
には縁のない世界として見向きもしなくなる、それが

人間として正しい態度であ
り、生き方であるというふ
うには思えない。思いたく
ないし、また思ってはなら
なぬことでもあろう。そう
でなければ、そもそもヒュ
ーマニズムというものが意
味をなさない。いや、さら
に言えば、人間そのものの
存在が、意味を失なってし
まう。

《一粒の麦》として、また
《地の塩》として生きるこ
と。それは、むずかしいこ
とだ。が、ある一つのこと
が困難だということ、不
可能だということとは必ず

とうとうこっぴが腹を立ててしまつて、そんなわけの分らぬことを言うなら、もう交渉打ち切りだと言つて、座を立つたこともあつたんです。そして、あとで他の代表が私を訪ねてきて、あれはわれわれの本意ではないから考え直して欲しいというんですね。そんなわけで、2カ月くらいで補償金各世帯に7万円ということで結着がつきました。もっとも、出る前にお金をくれというので、もしお金は渡したが、立ちのいてくれないでは困るぞと迷つたんですけど、ここは潔きよく相手を信じて先渡ししました。ところが、なかなか出てくれないんですよ。困つたなと思つていたら、そのうち一軒がやつと出てくれました。そして、そこが空家になつたものだから、そこにいた南京虫がどんどん他の家に侵入していったんです。それで、これはかなわんというので、次々に立ちのいてくれました。

この地区は、昼間孤児つまり、昼間両親不在家庭の児童が50%も占めているんです。だから、そういう子供たちをどうやって守り育ててゆくか、それがいちばん大きな問題ですね。保育所、幼稚園に力をいれているのもそのためです。昼間保育が7時30分〜午後5時30分、夜間が5時〜9時となっています。昼間保育が約百八十名、夜間保育が約三十名で、8名の保母さんが世話をしているわけです。生活保護をうけているとか、税金免除とか市民税だけは納めているとか、そういう家庭の子供が大部分(約80%)なんです。

小学生と中学生のための学習教室もやっています。週4回、1回に20円ずつ生徒に負担してもらっています。これは勉強のあとのおやつ代です。しかし、この地区の子供は根気が続かないですね。折角ここへ勉強に来てても面白くないといつて、すぐ来なくなる。だから、しょっちゅう生徒の顔ぶれが入れかわつてしまつてですね。それで、勉強に来なくてもいいから、土曜日にはなんでも好きなことをしていいから、遊びに来るように言つてゐるんです。いずれ、是非体育館をつくつて、空手、ボクシ

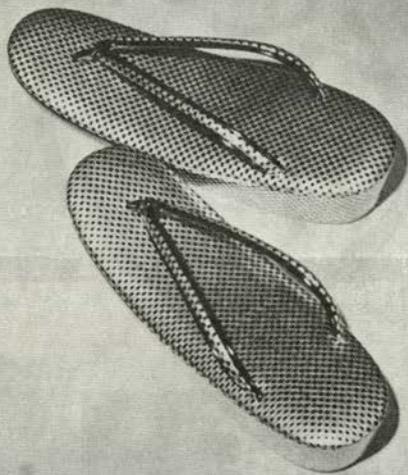
ング、柔道など、現代っ子の喜ぶスポーツをとりいれていきたいと思つています。他に相談室もあつて、専門のカウンセラーがいろんな悩みごとの相談のつています。いつかも、病院で痛だからあと50日の命しかないと言告された身寄りのない老人が、ここに来られたことがあつた。そこで3人のカウンセラーが、医療的・宗教的な援助をいたしまして、市民病院に入院させてあげました。助かりませんでしたけれども、はじめ絶望的になつていた老人も、はじめて人間らしい扱いをうけた」と手帳に書きのこして平静に死んでいきました。

いずれにしても、私もにとつて、教会とか記念館とかいう建物自体が大切なのではなく、それを地域社会の中で、どう生かしてゆくか、そういうこの世との交わりこそ大切なのだと思うのです。」

村山盛嗣館長は、そうきつぱりと言いつつ切つた。

預つた子供が、突然いなくなることもある。こつそり幼稚園をぬけ出してしまふのだ。どこにも預つてもらえなかつた精薄児を、賀川記念館は思い切つて引きとつたある時、その子の姿が突然見えなくなった。市電通りに飛び出したところを、自動車にハネられて死んだ。主任の前田重代さんは、幾日も眠られぬ夜をすごした。その子の親が「どこでも相手にしてくれなかつたのに、本当に親切にしていただいた」と、むしろ感謝してくれた。それを聞いた時、前田さんははじめて救われた思いがした。だが、その子の痛ましい死を思い出すたびに、「よくなつてくれていたのに」と、前田さんの目に涙がうかぶ。高熱を出した子供を、急ぎ病院に運ぶこともある家庭に連絡しようとしても、親は働きに出て家にはいないのだ。おしこやうんこで汚れた下着も、洗わなくてはならない。だが、そうして世話をした子供が一日一日大きくなつてゆくとき、この子たちの命を自分たちが預つているのだ、という責任と喜びを自覚する。このような幾人かのボランティアを支えられて、賀川記念館は、さらにたくましく前進してゆくにちがいない。

お正月の装いに
センスが光るお足元



趣味の履物

まるき

神戸三宮センター街 電話 33 4478

呉井陳蔵
みよ〜也

神 戸 大 丸 前
電話神戸33三三八八〜九番
大阪店 阪神百貨店三階
電話大阪06五五四八番
姫路店 やまこやしき百貨店三階
電話姫路23一二二一番
衣裳部 三宮町三丁目柳筋
電話 33 五一六五番



モード画
ていきょう
デザインルームK
TEL 39 / 5291

センスをポイントにしているウェアの店

大丸前 **セツ**
生田・三宮3.18 TEL 39 / 1851

お歳暮に



●市内無料配達 地方送り承ります



神戸三宮トア・ロード 本店 331番 南店 331616番

オリエンタルホテル・ア・ラ・カルト(その6)

一ぱいのコーヒで異国情緒満喫

開港して以来、神戸にはたくさん外人が住んでいて、エキゾチックな空気のみなざる街である。いまも、パニョル戯曲にでてくる港街らしいムードが濃厚にただよっているのはなんとしても、メリケン波止場から京町へかけての一带だろう。

道の両側の外国の船会社や商館の窓下から突きだした国旗や社旗が、はたはたと風にひるがえっていたり、表にとめた車の中でコンパクトをのぞきながらひけてくる主人を待っている風景など決して悪いものではない。

京町通りに最近建ったオリエンタルホテルのいちばん南側の入口からはいつて階段をおりてゆくとオリエンタル・アーケドが美しいシヨウウインドウをならべているその向い側にあるのが、オリエンタルホテルのコーヒショップだ。百人近くが座れるくらい広い店には邦人半分、外人半分のお客でたぎわい、いづれも店の雰囲気をはかしてしまっている。BGMが鳴るほかはまったく静かな雰囲気、壁には世良さんの絵が一枚かかっているだけでなんの飾り気もない。しかしこれがかえってこの店に来る毛色の変わったお客の国民性の面白味や髪や服飾のファッションの妙味などをながめているのに都合がよいようだ。

ここへきて、洒落た食べ方をしようとする人にすすめたいのが二つある。

ランチはスーパから料理、サラダ、コーヒートひと通りたべて五〇〇円で、ちょっとお友達をさそってたべてもいいし、ここでデートして、お腹をつくってから静かな港街を散歩するのもいい。デパートにここを選んで好都合なのは、内外のカップルが多いから、お互に誰もが気にしないから。クリスマススイブなどの気分はさぞいいものでしょうな。

またこのショップはエスプレッソのコーヒ機を備えている。イタリアやスペインの大きい喫茶店

ではたいがいこれを置いているよ
うだが、ここは後側にレリーフ
がついているすこぶる豪華なも
で、おそらく関西ではここよりほ
かにあまりみられないものだろ
う。ケーキだけでたっぷり食欲を
満してくれる二〇〇円のシヨート
ケーキといっしょに、ここでコー
ヒをのんでいると、民謡のきこえ
るナポリの海岸や、闘牛のポスタ
ーがめくれかかったマドリッドの
街の気分がむんむん胸にせまっ
てくる。

エスプレッソのコーヒと指定
することを忘れなきよう。

(カット 松岡寛一)

*地階のコーヒショップ

